

白河民商

発行所
白河市天神町28
白河民商工業会
TEL(27)3161

拡大統一行動
11月16日(木) 午後3時



商売を語る会

第14回 白河民商

白河民商・経営金融税対部会主催の第14回「商売を語る会」が開かれ、各支部から37名が参加しました。経営金融担当三役の南條副会長のあいさつの後、3名の会員が自分の商売について熱く語っていただきました。

白河西支部 佐々木政美さん

「話題の松きの栽培」

「脱サラして始めた商売」

佐々木政美さんは、脱サラをしてまでなぜ、きのこ栽培を始めたか。広島まで新幹線に乗って出かけた時の葛藤や家族にも内緒で始めた時のこと、広島で大丈夫なことが、福島県では認められないことの多さなど実際に体験してきた商売の難しさなど、話をしていただきました。



サラリーマン時代に培ってきたことを商売に生かしているかの問いでは、経験が充分発揮できていました。益々頑張つて生産を伸ばしてほしいと思います。

泉崎支部 河島重昭さん

「在来工法」

「建築に夢を語る」

河島重昭さんは、震災後、息子さんが後継者として働きたしたこと、頑張つていけると思い、つい最近、株式会社になりました。大工になろうと思った話や、商売を始めて、回りに助けられてきたこと、民商に出会ったきっかけ(建設業許可申請)など話していただきました。



現在は、5人のスタッフで建築設計から施工仕上げまで在来工法で完成させ頑張つていくというつもりです。

中畑支部 小磯友和さん

「せなきいんべるノーカーネ」

「若手農家で収穫体験やイベント出店を」

小磯友和さんは、高校卒業後、美容師をめざし働き、責任ある立場だったが、長男ということもあり家族の絆を強くするためにも、地元に戻って家業の農業を継ぐことを決心し、夏の売れなかつたトマトをシール一枚で劇的に売れるようにしたことや商売の失敗で悔しい思いをしたこと、うれしかったことなど話をさせていただきました。

また、若い農家13人で、平成23年に結成した「ぐるぐるノーカーズ」の活動を通して地域の小学校や東京農大のサポートなど、様々な活動をしていること熱く語っていただきました。



矢吹町連絡協議会主催 芋煮会

11月5日(日)に矢吹町4支部の会員20人が集まって芋煮会を開きました。会場は大池公園をかり、朝早く場所取りや 風よけのシートを張るなど準備は万全で、10時には役員が集まり始めました。各支部で食材など事前に決めたものを持ち寄り、腕をふるう女性陣が待つも芋煮の食材がなかなか届かないハプニングもありましたが、かまどで火を起し、鉄板では待ちきれなくなった男性陣が焼肉やバーベキューを始め、12時には角田連絡協議会長の音頭で乾杯をすることができました。穏やかな秋空のもと、忙しい中娘3人を連れて参加した三神支部長や夫婦同伴で参加する会員も多く、昔話に花が咲いたり、町内の情報交換など、短時間ですが貴重な時間を過ごすことができました。「来年は…」と早くも期待する声が上がっています。



声を上げて、さらに運動をひろげましょう!

原発ゼロ・完全賠償をめざすつどい

11月1日(水)福商連は、なりわい判決を受け、東電の損害賠償の完全賠償を求めるためどんな活動をしていくか交流を行いました。

生業裁判の事務局長の馬奈木弁護士より、なりわい判決がどういう意味を持つのか、その中で、どうしたら完全なる賠償を獲得できるか交流を深めました。全商連・県内民商・仙南民商(宮城県)から50名を超える会員・関係者が集まりました。



支部だより

表郷支部役員会は11月2日にそば処はしもとで開かれ、役員・三役・事務局合わせて12人が出席しました。今回初めて支部役員会に出席した役員が紹介され、仕事の話や民商のことなど様々な話をしました。行事や学習会の予定を確認した後、支部長から支部の拡大リリース期間(10月21〜31日)に読者を1部拡大し、無事次につなげることができたという報告がありました。